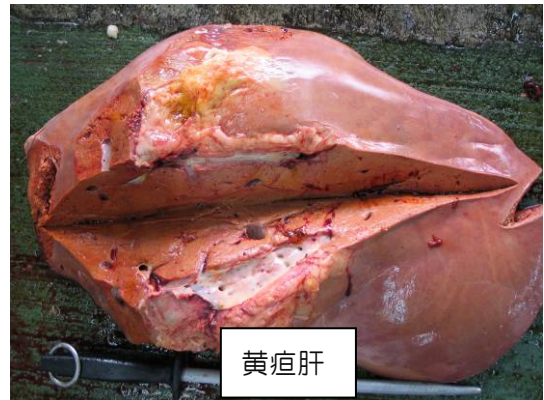


と畜検査で発見される病気

牛編 No2 黄疸

☆ どんな病気なの？

血液中のビリルビンという物質が増加して起こる病気（病気というより症状）です。ビリルビンは血液中のヘモグロビンの代謝産物で、様々な流れを経て便や尿中に排出されます。しかし何らかの原因でビリルビンが処理できなくなった場合に黄疸が発生します。黄疸になるとビリルビンの色によって臓器や脂肪、筋肉が黄色になってしまいます。ちなみに打撲の時にできるアザが黄色いのもこのビリルビンの色です。



☆ ちょっとお勉強ビリルビンの事

ビリルビンの体内での流れを説明しましょう。血中ヘモグロビンから代謝され生成(間接ビリルビン)→肝臓で代謝される(直接ビリルビン)→胆汁中に分泌される→十二指腸へ→便や尿として排出(便や尿はビリルビンとその代謝産物によって黄金色になります)

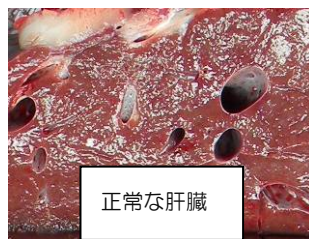


☆ 牛の黄疸...

牛の黄疸はピロプラズマ病(寄生虫)等の感染症でも認められますが、近年肥育牛に多発する黄疸は、過度の肥育により肝臓への負担が増大し、肝臓の働きが弱くなり、結果としてビリルビンが処理できなくなることが原因のようです。



正常な肝臓と
黄疸肝の色を
比べてみよう



☆ 黄疸の病理組織所見(肝臓)

黄疸の肝臓では、ビリルビンの胆管内うっ滞(青矢印)や脂肪変性(黒矢印の白く抜けた部位)が認められます。肝臓の脂肪変性は黄疸肝の初期症状で認められることが多いようです。

